

第114回看護師国家試験 総評

■問題構成

第114回看護師国家試験では、一般問題および状況設定問題において出題科目の順が変更され、地域・在宅看護論が成人看護学より前に出題されました。出題区分ごとの出題数に変更はなく、午前・午後ともに必修問題25問、一般問題65問、状況設定問題30問の計240問が出題されました。

また、第113回看護師国家試験と比較すると、第114回では必修問題の五肢択一問題が2問減少し、一般問題の五肢問題（五肢択一問題と五肢択二問題の合計）の合計は6問減少、状況設定問題の五肢問題は6問増加しました。

	第113回看護師国家試験			第114回看護師国家試験		
	五肢択一	五肢択二	五肢問題合計	五肢択一	五肢択二	五肢問題合計
必修問題	2	0	2	0	0	0（前年-2）
一般問題	17	16	33	11	16	27（前年-6）
状況設定問題	2	1	3	4	5	9（前年+6）

■問題内容

①必修問題

第113回と比較すると解きやすくなりました。これは、過去問題と類似した形式で出題されたためだと考えます。ただし、「目標Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復について基本的な知識を問う。」からの出題については、過去問題とは内容・形式が異なりました。そのため、過去問題の正答の単純な暗記に留まらない、丁寧な学習が必要であったと思われます。

②一般問題

第113回と比較すると解きにくく感じる問題が増加しました。国家試験対策において、過去問題を利用した学習は基本ですが、過去問題のなかから自分が解きやすいものだけを選んで学習していた場合、今回は得点につながりにくかったと考えられます。特に「人体の構造と機能」の問題は、過去問題にはなかった出題が多く、基本事項をなぞるだけの表面的な学習では得点が難しかったと思われます。

③状況設定問題

解きやすい問題（基本事項を問うなど）が並ぶ科目がありました。その一方で、新しい傾向の問題も散見されました。なかには、問題文の情報量が乏しく、さまざまな状況が想起されてしまい、正答を導きにくい問題もありました。五肢択一、五肢択二問題が増加したこともあり、第113回と比較すると、難易度が上がったように感じました。

■今回の国試を踏まえた今後の国試対策

第114回では、過去問題を基にしつつも、推論力や総合的な理解力を問う問題が増加しました。第115回に向けた国試対策では、過去問題の理解を深め、応用力を養うとともに、臨地実習で得た経験を活かして推論力を高めることが、合格への鍵となると考えます。

①過去問題の活用

第114回でも過去問題が出題のベースになっていたことから、第115回に向けても国家試験対策では過去問題を活用して学習することが基本となります。ただし、過去問題の正答を単純に暗記するだけでなく、問題文を丁寧に読み、選択肢一つひとつを理解する学習が必要です。そのように学習することで、過去問題とは異なる形式で出題されても対応できる力を養うことができます。

②出題基準の確認

過去問題の学習に加え、看護師国家試験出題基準の内容を確認することも必要です。出題基準を確認することで試験範囲を把握することができ、限られた時間のなかで効率的な試験対策を行えます。出題基準の確認により、学習の抜けや偏りを防ぐこともできます。

また、第114回では、令和5年版看護師国家試験出題基準で新たに追加された出題基準項目のうち、第113回で出題されなかった項目が出題されました。第115回対策では、新たに追加された出題基準項目のうち、第113回・114回で出題されていないものを確認しておきましょう。

③推論力の強化

状況設定問題の事例文に情報量が少ないことは、推論力を試す意図に基づいている可能性もあります。今後も推論力が必要な問題が増加することが考えられるため、臨地実習での実感や実体験を伴う学習を通じて、判断力や問題解決力を磨くことが必要だと考えます。

④模擬試験の活用

定期的に模擬試験を受験して自身の得点力を確認し、弱点の科目を重点的に強化することが重要です。問題を解くだけでなく、解説集を活用して出題内容への理解を深めることが、より効果的な学習につながります。

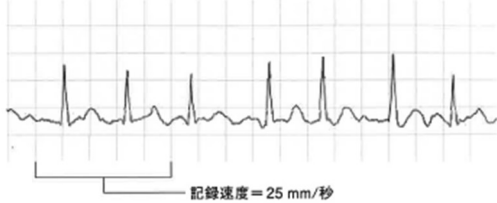
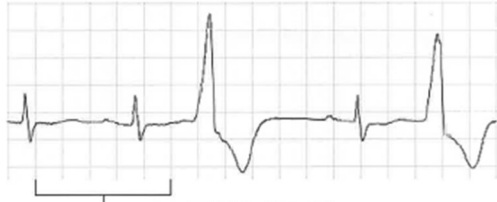
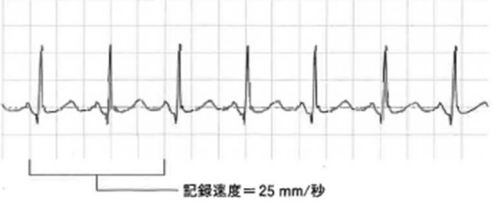
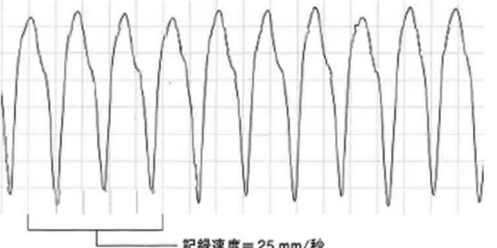
■ 必修問題の特徴的な問題

① 従来の必修問題と形式・内容が異なる問題

必修問題ではこれまで、1問につき1つの知識を問う問題が多く出題されていましたが、第114回では複数の知識を問う問題が出題されました。

第114回 午前 問題 12	過去問題：第110回 午前 問題 12
<p>成人の食道の構造で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胃の幽門につながる。 2. 上1/3が平滑筋である。 3. 生理的狭窄部位がある。(予想○) 4. 長さは約45cmである。 	<p>胃から分泌される消化管ホルモンはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガストリン (○) 2. セクレチン 3. 胃抑制ペプチド 4. コレシストキニン

従来、必修問題の心電図に関する出題では、ほとんどの場合、心室細動が正答となる問題が出題されていましたが、今回は心室頻拍が問われました。

第114回 午前 問題 13	過去問題：第108回 午後 問題 13
<p>心電図波形(別冊 No.1)を別に示す。 心室頻拍はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ① 2. ② 3. ③ 4. ④ (予想○) <p>①</p>  <p>②</p>  <p>③</p>  <p>④</p> 	<p>最も緊急性の高い不整脈はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心房細動 2. 心室細動 (○) 3. 心房性期外収縮 4. 1度房室ブロック

②最新の情報を確認して学習する必要がある問題

社会保障制度に関連する出題は、法改正などの影響を受けるため、最新の情報を確認して学習する必要があります。前回、類似の問題が出題されたのは、10年前の第104回で、その当時の国民健康保険の保険者は市町村のみでした。

第114回 午後 問題4	過去問題：第104回 午前 問題3
<p>国民健康保険の保険者に含まれるのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期高齢者医療広域連合 2. 共済組合 3. 都道府県（予想○） 4. 国 	<p>国民健康保険の保険者はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国 2. 都道府県 3. 市町村（○） 4. 健康保険組合

③問題文を丁寧に読まないケアレスミスにつながる問題

過去問題を解いた記憶から、閉塞性黄疸という言葉で反射的に皮膚の色が問われていると思ってしまうと、選択肢2を選んでしまいます。

第114回 午前 問題14	過去問題：第102回 午前 問題12
<p>閉塞性黄疸の患者にみられる便の色はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 赤 2. 黄 3. 黒 4. 灰白（予想○） 	<p>チアノーゼの際の皮膚の色に最も近いのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青（○） 2. 赤 3. 黄 4. 白

④図を読み取る力が必要な問題

足底に大きな円が描かれ、「A」と示されていますが、絵全体を見て選択肢1を選ぶ学生もいたのではないかと思います。

第114回 午後 問題19	
<p>長期臥床している患者の仰臥位時のポジショニングを図に示す。</p> <p>Aの位置にクッションを挿入する目的はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥瘡の予防 2. 尖足の予防（予想○） 3. 腓骨神経麻痺の予防 4. 深部静脈血凝症の予防 	

■一般問題の特徴的な問題

①過去問題を改変した問題

過去に採点除外（問題は適切だが難易度高）となった問題が、選択肢を変更して出題されました。

第 114 回 午前 問題 29	過去問題：第 107 回 午前 問題 83 ※採点除外
<p>嚥下反射に伴って起こるのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 甲状腺の上下の動き（予想○） 2. 肝臓の上下の動き 3. 声門の開放 4. 舌根の沈下 	<p>嚥下運動に伴って起こるのはどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 声門の開放 2. 舌根の沈下 3. 甲状腺の挙上 4. 後鼻孔の閉鎖 5. 耳管咽頭口の開口

第 102 回では五肢択二問題として出題されましたが、正答肢を 1 つ削除して四肢択一問題として出題されました。これにより、正答率を確保したと考えられます。

第 114 回 午後 問題 61	過去問題：第 102 回 午後 問題 88
<p>乳児の心拍測定で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心拍数 110/分は正常である。（予想○） 2. 聴診ではⅠ音とⅡ音で 2 心拍である。 3. バスタオルで体幹および四肢を固定して測定する。 4. 呼吸周期に関連した心拍リズムの不整は異常である。 	<p>乳児の心拍測定について正しいのはどれか。2つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心拍数 110/分は正常である。（○） 2. 聴診ではⅠ音とⅡ音で 2 心拍となる。 3. バスタオルで体幹および四肢を固定して測定する。 4. 呼吸周期に関連した心拍リズムの不整は異常である。 5. 聴診器が接触した際の冷感による心拍数の変動に気をつける。（○）

②選択肢 1 つずつに対するアセスメントが必要な問題

患者の情報、検査データ、視覚素材をベースにして、選択肢を 1 つずつ判断する問題です。総合的な理解力が求められる良問です。

第 114 回 午前 問題 51
<p>A さん（27 歳、男性）は、突然の胸痛と呼吸困難があり、救急外来を受診した。意識は清明。身長 179 cm、体重 63 kg、胸郭は扁平である。20 歳から 1 日 50 本の喫煙をしている。バイタルサインは、体温 36.1 °C、呼吸数 22/分、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）96%（room air）である。</p> <p style="text-align: right;">No. 2 （午前 問題 51）</p> <p>胸部 CT（別冊 No.2）を示す。</p> <p>A さんの所見から考えられるのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 酸素吸入が必要である。 2. 抗菌薬投与が必要である。 3. 右肺野の呼吸音は減弱している。（予想○） 4. 左胸腔内は液体成分で占められている。



③ 2問の過去問題を合わせて作成された問題

2問の問題はともに第110回に出題されていました。過去問題について、正答を確認するだけでなく、それぞれの問題を丁寧に学習することが求められた問題です。

<p>第114回 午後 問題 38</p> <p>経口薬と飲料の関係で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テトラサイクリン系抗菌薬は、牛乳によって作用が減弱される。(予想○) 2. 非ステロイド性抗炎症薬は、炭酸飲料によって吸収速度が速まる。 3. テオフィリンは、カフェインを含む飲料によって作用が減弱される。 4. カルシウム拮抗薬は、グレープフルーツジュースによって作用が減弱される。 	<p>過去問題：第110回 午前 問題 17</p> <p>カルシウム拮抗薬の血中濃度を上げる食品はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 牛乳 2. 納豆 3. ブロccoli 4. グレープフルーツ (○) <p>過去問題：第110回 午後 問題 39</p> <p>経口薬と食品の関係について、正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テトラサイクリン系抗菌薬は牛乳の摂取によって吸収が高まる。 2. 非ステロイド性抗炎症薬は炭酸飲料の摂取によって吸収が早まる。 3. 抗ヒスタミン薬はアルコールの摂取によって副作用〈有害事象〉が出現しやすくなる。(○) 4. キサンチン系気管支拡張薬は納豆の摂取によって副作用〈有害事象〉が出現しやすくなる。
--	---

④カタカナの用語の意味を問う問題

例年、老年看護学で多くみられる形式ですが、第114回では基礎看護学、母性看護学、精神看護学などで多数出題されました。新たに出題された用語は、概して得点しにくい傾向があります。

<p>第114回 午前 問題 34</p> <p>患者の個別性を理解するために必要な概念はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ダイバーシティ (予想○) 2. パターナリズム 3. プライマリヘルスケア 4. ソーシャルインクルージョン 	<p>第114回 午前 問題 59</p> <p>ポリファーマシーの説明で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療者の指示どおりに服薬しない状況 2. 多剤併用による有害な事象が生じている状態 (予想○) 3. 認知機能の低下により服薬管理が困難な状態 4. 処方されている薬の内容を理解していない状況
<p>第114回 午前 問題 65</p> <p>セクシュアリティに関する用語と説明の組合せで正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 性的指向 ——— 表現する性 2. セックス ——— 性愛の対象 3. ジェンダー ——— 生殖性の性 4. ジェンダーアイデンティティ ——— 自身の性別の認識 (予想○) 	<p>第114回 午前 問題 66</p> <p>プレコンセプションケアについて正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケアの対象は女性に限定されている。 2. 母体保護法によって規定されている。 3. 国際連合〈UN〉によって提唱されている。 4. 将来の妊娠に向けた健康の保持増進を目的としている。(予想○)

第 114 回 午後 問題 68

精神障害のある人のリカバリーで正しいのはどれか。

1. 症状の回復がゴールである。
2. 直線的なプロセスをたどる。
3. 主体的に人生を新たに生き直すことである。(予想○)
4. ストレス脆弱性に焦点を当てた支援である。

⑤法規、統計に関する問題

例年多く出題されますが、第 114 回でも多数の出題がありました。大まかな傾向を押さえるだけでは得点しにくい問題もありました。

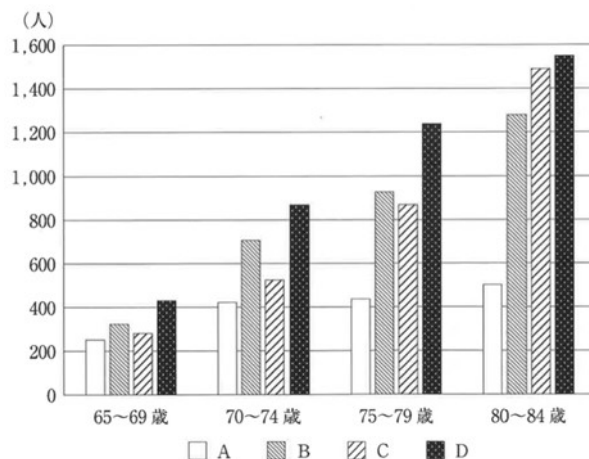
第 114 回 午後 問題 55 で正答を選ぶには、不慮の事故の年齢階級別の死亡の状況を押さえる必要があります。65 歳から 84 歳までで最も多いのは「溺死及び溺水」で、85 歳以上で最も多いのは「転落、転倒、墜落」です。

第 114 回 午後 問題 55

日本の令和 3 年（2021 年）の人口動態統計に基づく、65 歳以上 85 歳未満における不慮の事故による死亡状況をグラフに示す。

D はどれか。

1. 窒息
2. 交通事故
3. 溺死及び溺水(予想○)
4. 転倒、転落、墜落



介護療養型医療施設が、2024 年 3 月末で完全廃止されたことを受けての出題だと思われます。

第 114 回 午前 問題 60

介護医療院の説明で正しいのはどれか。

1. 健康保険法に基づき設置される。
2. 入所対象者は要介護 3 以上である。
3. 要介護高齢者の長期療養・生活施設である。(予想○)
4. 看護職員数は入所者 100 人当たり 3 人である。

■状況設定問題の特徴的な問題

①過去問題を活用した問題

第 114 回 午前 問題 94 は、第 103 回 午前 問題 94 がほぼそのまま活用され、次の午前 問題 95 は第 103 回 午前 問題 95 が選択肢を一部変更して利用されていました。続く午前 問題 96 も、第 103 回 午前 問題 96 の選択肢の内容がベースとして利用されていました。

<p>第 114 回 午前 問題 94～96 (成人看護学)</p>	<p>過去問題：第 103 回 午前 問題 94～96 (成人看護学)</p>
<p>A さん (56 歳、女性、主婦) は、食後に冷汗を伴う腹痛があり外来を受診した。腹部超音波検査の結果、胆石症と診断され、腹腔鏡下胆嚢摘出術の目的で入院した。</p> <p>看護師は手術オリエンテーションで、術後の入院期間は 2 日と説明した。A さんは、同じ手術を受けた妹が合併症で 3 週間以上食事もできなかったため、自分も同じ合併症を発症するかもしれないと心配そうに話した。</p>	<p>A さん (56 歳、女性、主婦) は、胆石症と診断され、腹腔鏡下胆嚢摘出術予定で入院した。A さんは身長 152 cm、体重 70 kg である。A さんは、数年前に脂質異常症を指摘されたが、治療は受けていない。A さんにその他の特記すべき既往歴はない。</p>
<p>第 114 回 午前 問題 94</p>	<p>過去問題：第 103 回 午前 問題 94</p>
<p>A さんの妹が発症した合併症はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肺炎 2. 胆汁瘻 (予想○) 3. 皮下気腫 4. 深部静脈血栓症 	<p>看護師が手術オリエンテーションを行い、術後の入院期間は 5 日程度であると説明した。これに対して A さんは「1 年前に妹が同じ手術を受けたが、食事はしばらく食べられず 3 週間以上管が抜けなかった。自分にも妹と同じ合併症が起こるかもしれない」と心配そうに話した。</p> <p>A さんが心配している、妹に起こった合併症はどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 肺炎 2. 胆汁瘻 (○) 3. 皮下気腫 4. 深部静脈血栓症
<p>第 114 回 午前 問題 95</p>	<p>過去問題：第 103 回 午前 問題 95</p>
<p>A さんは、全身麻酔下で気腹法による腹腔鏡下胆嚢摘出術を受けている。</p> <p>手術中の A さんに最も生じやすいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体温の上昇 2. 心拍出量の上昇 3. 腹腔内圧の低下 4. 動脈血二酸化炭素分圧 (PaCO₂) の上昇 (予想○) 	<p>A さんは、全身麻酔下で気腹法による腹腔鏡下胆嚢摘出術を受けた。</p> <p>手術中に A さんに最も生じやすいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 褥瘡 2. 高体温 3. 無気肺 (○) 4. 脳梗塞

第 114 回 午前 問題 96	過去問題：第 103 回 午前 問題 96
<p>A さんの術後の経過は良好で、退院した。その後の外来受診で「下痢をすることが多いです」という訴えがあった。</p> <p>下痢を予防するために控えるもので正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 塩分 2. 脂質（予想○） 3. 糖質 4. 蛋白質 	<p>A さんの術後の経過は良好で、退院の許可が出た。</p> <p>退院後の日常生活に関する説明で正しいのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「低蛋白食を摂取してください」 2. 「退院後 1 週間、シャワー浴はできません」 3. 「脂肪分の多い食事で下痢をするかもしれません」（○） 4. 「傷口が赤く腫れてきたら、消毒をしてください」

②情報の不足や表現の曖昧さにより正答を迷う問題

午前 問題 91 では、選択肢 1 と選択肢 3 で悩みます。選択肢 1 「服薬の状況」は、他の選択肢に比べて幅広い内容を含む表現で、「服薬の状況」に副作用も含まれると考えた受験生は、この選択肢を選んだと考えられます。A さんが転倒しそうな状況がもう少し詳細に提示されていれば、迷わずに解答できたと思われます。

第 114 回 午前 問題 91～93（地域・在宅看護論） ※該当の問題は午前 問題 91・92
<p>A さん（73 歳、女性）は 1 人で暮らしており、脳梗塞で入院した。A さんは左半身に麻痺があり、認知機能障害はない。4 点杖を使用して歩行が可能となり、住宅改修をして自宅に退院した。退院後は、降圧薬と抗血栓薬が処方され、服薬管理と健康管理の目的で訪問看護を週 1 回、調理と買い物代行の目的で訪問介護を週 1 回利用している。A さんは「昨日、退院して初めて 1 人で買い物に行ったら転びそうになって、隣にいた人に支えてもらったんです」と訪問看護師に話した。</p>
第 114 回 午前 問題 91
<p>このとき、訪問看護師が転倒予防のために収集する情報として最も適切なのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 服薬の状況 2. 食事の摂取量 3. 右上下肢の筋力（予想○） 4. 他者との交流の頻度

午前 問題 92 については、選択肢 1 はパンツ型オムツに外出用の薄型のものがあることを想起すれば、A さんが快適に利用できると考えられます。その一方で、選択肢 2 は「一人暮らしである」ことを重視する視点、選択肢 4 は「認知機能の低下がない」ことを重視する視点と、視点を変えればいずれも正答になり得ます。複数の選択肢が正答になり得るのは、尿漏れの具体的な状態に関する情報が不足しているためだと考えられます。

第 114 回 午前 問題 92

退院から 2 か月後、A さんは杖歩行が安定し、時間をかけて調理や買い物を自分で行うようになった。看護師が訪問したとき、A さんから「最近トイレに間に合わずに尿が漏れてしまうことがあるんです。恥ずかしいので排泄だけは人の世話になりたくないんです。良い方法があれば教えてください」と相談された。

このときの訪問看護師の A さんへの助言で最も適切なのはどれか。

1. 「パンツ型オムツを使ってみましょう」（予想○）
2. 「ポータブルトイレを使ってみましょう」
3. 「夕食後は水分を摂り過ぎないようにしましょう」
4. 「ご自分の排尿間隔に合わせてトイレに行きましょう」（予想△）

③ 診断名を推測して解答する問題

状況設定文から、膀胱癌であることを導き出して解答していく問題でした。膀胱癌で膀胱全摘除術・回腸導管造設術を受ける事例は過去にも出題されていますが、症状や所見から疾患名を類推することが難しかった受験生には、解きにくい問題だったと思われます。

第 114 回 午後 問題 97～99（成人看護学）

A さん（57 歳、男性）は、芳香族アミンを扱う化学工場に 39 年勤務している。

現病歴：ここ数か月で次第に尿の色が濃くなった。いきまないと排尿できなくなり、泌尿器科を受診し、採血および尿検査を受けた。

既往歴：特記すべき点なし。

生活歴：喫煙 40 本/日を 36 年、焼酎 120mL の飲酒をほぼ毎日、20 年間続けている。

身体所見：顔面、四肢に浮腫なし。黒色便なし、血便なし。

検査所見：赤血球 308 万/ μ L、Hb 9.9 g/dL、血清アルブミン 4.2 g/dL、血清総ビリルビン 0.2mg/dL、血糖 102mg/dL、ヘモグロビン A1c 〈HbA1c〉 5.4 %。

④ 基本事項を中心に出题された問題

母性看護学は、過去問題をベースとした問題が多く、基本事項からの出題がほとんどでした。

第 114 回 午前 問題 109～111（母性看護学）

A さん（41 歳、初産婦、会社員）は夫（42 歳、会社員）と 2 人で暮らしている。身長は 158cm、非妊時体重 55 kg である。A さんは妊娠 16 週 3 日に妊婦健康診査を受診し順調な経過と診断された。妊婦健康診査後「夫から、高齢妊娠だから安静にするよう言われ、夫が家事をしてくれています。妊娠前はバスケットボールを週に 3 日、毎日夕方に夫とウォーキングをしていました。今は仕事に行く以外は、家でなるべく動かないようにしています」と A さんが看護師に話した。

第 114 回 午前 問題 109	
<p>A さんへの活動に関する助言で適切なのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「仕事は辞めましょう」 「ウォーキングを再開しましょう」（予想○） 「週 1 回バスケットボールをやりましょう」 「ご家族の言うように安静にしましょう」 	
第 114 回 午前 問題 110	過去問題：第 108 回 午前 問題 106
<p>A さんは妊娠 24 週 0 日に妊婦健康診査を受けた。体重 60 kg（妊娠 20 週の体重は 58 kg）。血圧 138/88mmHg、Hb 10.1 g/dL、Ht 31%、尿蛋白（-）、尿糖（±）であった。A さんは「足が重い気がします」と話すが、脛骨上の圧痕は認めなかった。</p> <p>このときのアセスメントで適切なのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 体重増加が過剰である。 妊娠性貧血である。（予想○） 高血圧である。 浮腫がある。 	<p>A さん（34 歳、初産婦）は、夫（37 歳、会社員）と 2 人暮らし。事務の仕事をしている。身長 157 cm、非妊時体重 54 kg。妊娠 24 週 4 日の妊婦健康診査時の体重 58kg で 4 週前から 1.5kg 増加している。血圧 128/88mmHg。尿蛋白（±）、尿糖（-）。浮腫（±）。Hb10g/dL、Ht30%。子宮底長 22.5cm、腹囲 84cm。胎児推定体重 700g。非妊時より白色の膣分泌物は多いが、掻痒感はない。</p> <p>A さんの妊婦健康診査時のアセスメントで適切なのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 妊娠性貧血（○） 膣カンジダ症 胎児発育不全〈FGR〉 妊娠高血圧症候群〈HDP〉
第 114 回 午前 問題 111	過去問題：第 108 回 午前 問題 108
<p>A さんは夫に付き添われ、妊娠 35 週 4 日に妊婦健康診査を受けた。妊婦健康診査では、体重 65 kg、血圧 126/76 mmHg。尿蛋白（-）、尿糖（-）。浮腫（±）。子宮底長 30cm、腹囲 88cm で異常を認めなかった。その後、A さんは看護師に「夕方になると足がだるくなり、膝の裏を見たら、血管が膨らんで、青く浮き出ました」と言う。</p> <p>A さんへの指導で適切なのはどれか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「体重を減らしましょう」 「腹帯を強く巻きましょう」 「できるだけ立っていきましょう」 「弾性ストッキングを着用しましょう」（予想○） 	<p>A さんは夫に付き添われ、妊娠 35 週 4 日に妊婦健康診査を受けた。体重 62 kg、血圧 126/76 mmHg。尿蛋白（-）、尿糖（-）。浮腫（±）。子宮底長 30cm、腹囲 88cm。A さんは看護師に「膝の裏の血管が膨らんで、青く浮き出てきました。夕方になると足がだるくなり、夕食の準備のため立っているとつらくなります」と言う。</p> <p>A さんへの指導で適切なのはどれか。2 つ選べ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「水分を控えましょう」 「体重を減らしましょう」 「ガードルを着用しましょう」 「弾性ストッキングを着用しましょう」（○） 「寝るときは足を高くして横になりましょう」（○）

第 114 回 午前 問題 112~114 (母性看護学)

A さん (36 歳、経産婦) は、夫 (35 歳)、男児 (3 歳) と 3 人で暮らしている。妊娠、分娩経過は順調で、妊娠 39 週 5 日で 3,200 g の男児を経腔分娩で出産した。1 分後の Apgar <アプガー> スコア 9 点、5 分後の Apgar <アプガー> スコア 10 点であった。

産褥 1 日、A さんの子宮底は臍下 2 横指、硬度良好、悪露は赤色であった。「1 人目の出産後よりもお腹が痛くて眠れませんでした」と看護師に話す。

第 114 回 午前 問題 112

このときの A さんへの説明で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 「痛み止めは使用できません」
2. 「授乳をすると痛みが和らぎます」
3. 「経産婦のほうが痛みを強く感じます」 (予想○)
4. 「産後 5 日くらいまで痛みは続きます」
5. 「子宮が元の大きさに戻るための痛みです」 (予想○)

第 114 回 午前 問題 113

産褥 3 日、乳房は緊満、乳腺開通は左右とも 5、6 本、射乳がある。1 日 8 回授乳をしている。児の体重は 3,080 g で前日よりも 20 g 減少している。「母乳で育てたいと思っていたけど、乳房が張って授乳がうまくできません」と話す。

このときの A さんへの説明で適切なのはどれか。

1. 「水分を多めに摂りましょう」
2. 「時間を決めて授乳しましょう」
3. 「乳房の張りは 2 週間程度続きます」
4. 「授乳の前に乳輪部のマッサージをしましょう」 (予想○)

過去問題：第 113 回 午後 問題 108

帝王切開術後 5 日、診察の結果、明日退院することになった。A さんの乳房は緊満しており、乳管は左右とも 5、6 本開通している。母児同室を行い、児の哺乳の欲求に合わせて 1 日 10 回の授乳を行っている。「母乳で育てたいと思っています。でもおっぱいが張ってつらいです。この子も上手に吸ってくれません」と看護師に話した。

このときの看護師の説明で適切なのはどれか。

1. 「授乳の回数を減らしましょう」
2. 「授乳前に乳輪を柔らかくしましょう」 (○)
3. 「授乳と授乳の間は乳房を温めましょう」
4. 「乳房の緊満が強くなるのはこれからです」

第 114 回 午前 問題 114

日齢 4、A さんの児の体重は 3,100 g。体温 37.1 °C、呼吸数 48/分、心拍数 130/分。経皮ビリルビン 10.0 mg/dL。排尿 9 回/日、排便 8 回/日。

児のアセスメントで正しいのはどれか。

1. 経皮ビリルビン値は光線療法が必要な値である。
2. 生理的体重減少の範囲を超えている。
3. バイタルサインは正常である。 (予想○)
4. 排尿回数が少ない。

過去問題：第 112 回 午前 問題 111

日齢 4。看護師が A さんの児を観察したところ、バイタルサインは、体温 (直腸温) 37.3 °C、呼吸数 55/分、心拍数 134/分。経皮ビリルビン 20.0mg/dL であった。

A さんの児の状態で医師に報告が必要なのはどれか。

1. 経皮ビリルビン値 (○)
2. 呼吸数
3. 心拍数
4. 体温

第 114 回 午後 問題 109～111 (母性看護学)

A さん (30 歳、初産婦) は妊娠 39 週 3 日で陣痛発来した。その後、陣痛が増強して順調な分娩経過と診断され、入院後に分娩した。

A さんの分娩経過を以下に示す。

- 2 時 00 分 陣痛周期 10 分
- 5 時 30 分 入院
- 15 時 00 分 分娩室入室
- 15 時 30 分 子宮口全開大
- 15 時 40 分 自然破水
- 16 時 20 分 児娩出
- 16 時 30 分 胎盤娩出
- 18 時 30 分 帰室

第 114 回 午後 問題 109

A さんの分娩所要時間はどれか。

1. 13 時間 00 分
2. 14 時間 20 分
3. 14 時間 30 分 (予想○)
4. 16 時間 30 分

過去問題：第 110 回 午後 問題 108

A さんの分娩経過は以下のとおりであった。

- 2 時 00 分 陣痛周期 10 分
- 4 時 00 分 入院
- 15 時 00 分 分娩室入室
- 15 時 30 分 子宮口全開大
- 16 時 00 分 自然破水
- 16 時 15 分 児娩出
- 16 時 30 分 胎盤娩出

A さんの分娩所要時間はどれか。

1. 12 時間 30 分
2. 14 時間 15 分
3. 14 時間 30 分 (○)
4. 16 時間 30 分

第 114 回 午後 問題 110

分娩直後の出血量は 300 mL であった。分娩後 1 時間の出血量 20 mL、子宮底は臍下 2 横指で硬度良好、脈拍 75/分、血圧 100/74 mmHg であった。分娩後 2 時間の出血は 20mL、子宮底は臍下 1 横指で硬度良好。脈拍 75/分、血圧 126/56 mmHg であった。児への早期授乳後に下腹部の痛みを訴えている。尿意があり少量の排尿があった。

A さんのアセスメントで適切なのはどれか。

1. 尿閉である。
2. 下腹部痛は異常である。
3. 子宮復古が良好である。(予想○)
4. 分娩時異常出血である。

第 114 回 午後 問題 111

児は出生 2 時間後、寝衣を着用しコットに収容された。児のバイタルサインは、体温 (腋窩温) 36.4 °C、呼吸数 40/分、心拍数 120/分であった。また末梢の冷感はあるが、チアノーゼは認めなかった。排尿、排便はない。児の頬を軽く突くと刺激の方向を向き、口を開ける動作がみられる。また、腋窩と鼠径部に胎脂が付着している。

このときに必要なケアはどれか。

1. 掛け物を温めたものに交換する。(予想○)
2. 口腔内吸引をする。
3. 肛門刺激をする。
4. 沐浴をする。

看護の統合と実践の出題である午前 問題 118～120 は、国際看護および緩和ケアをテーマとした出題でした。基本事項の出題であり、解きやすい問題でした。

第 114 回 午前 問題 118～120 (看護の統合と実践)

A さん (64 歳、男性、外国籍) は、1 年前に日本に移住し、娘 (36 歳、会社員) と娘の夫 (42 歳、会社員、日本人) と 3 人家族である。娘の夫は海外に長期出張中で、娘は日本語での簡単な日常会話はできるが、A さんはほとんど日本語が理解できない。

A さんは、2 か月前から時々腰痛があり、市販薬で様子を見ていたが、徐々に腰痛が強くなり、娘に付き添われて受診した。検査の結果、肺癌と診断され、胸膜と腰椎への転移が見つかり、疼痛コントロールの目的で入院した。

第 114 回 午前 問題 118

病状について医師から説明を受けることになったが、娘から「夫はしばらく帰ってこないし、私は難しいことは分からないのでどうしたらいいですか」と質問を受けた。

看護師の助言で適切なのはどれか。

1. 「ご主人に帰国してもらいましょう」
2. 「医療通訳の方に同席してもらいましょう」 (予想○)
3. 「娘さんから A さんにお話しされてはいかがですか」
4. 「通訳できる知人を探して、同席してもらいましょう」

第 114 回 午前 問題 119

入院後、医療従事者との日常会話は、電子端末による翻訳を活用している。疼痛に対しては、モルヒネ徐放製剤の内服が開始され、レスキュードーズとして、モルヒネ速放製剤の内服が指示されている。激しい腰痛が 1 日に数回あるが、レスキュードーズを使いたくないと話し痛みを我慢している。

看護師の対応で優先度が高いのはどれか。

1. レスキュードーズを無理に使う必要はないことを伝える。
2. レスキュードーズを使いたくない理由を確認する。 (予想○)
3. レスキュードーズの使い方を説明する。
4. 疼痛スケールの記載を勧める。

第 114 回 午前 問題 120

入院 8 日、疼痛がコントロールされてきた A さんは「家に帰りたい」と希望しているが、娘は「仕事もあるし、もう少し病院にいてほしい」と話している。そこで、看護師の提案により A さんのアドバンス・ケア・プランニングが行われることになった。

A さんのアドバンス・ケア・プランニングで適切なのはどれか。

1. 退院調整看護師に退院の手続きを進めてもらう。
2. A さんの発言内容の記録は施設外の人には提供しない。
3. 娘の思いや不安に思っていることの解決が優先される。
4. A さんが大切にしていることや生きがいについて話してもらう。 (予想○)